可児さんの「邪馬台国と高天原の関係」へのコメント

2023/11/11

丸地三郎

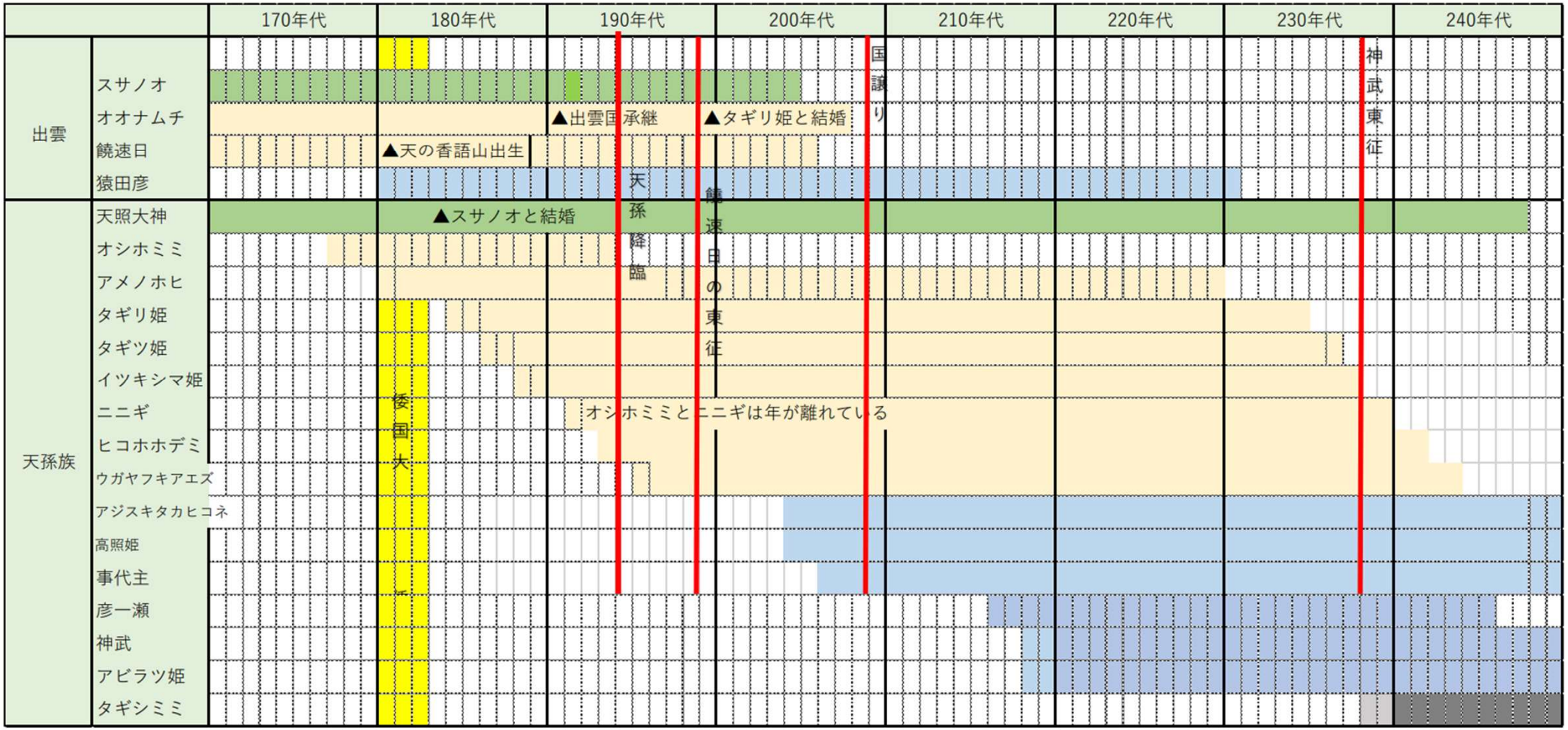
人物生存期間の可児試案

人物の生存期間試案

	生年	結婚年	死亡年	死亡年齢
饒速日	163	178	205	42
スサノオ	142	157	202	60
猿田彦	180	195	事故死	
天照大神	161	176	247	86
タギリ姫	184	199	244	60
タギツ姫	186	201	246	60
イチキシマ姫	188	203	248	60
オシホミミ	178	193	193	15
ニニギ	192	207	252	60
ヒコホホデミ	194	209	254	60
ウガヤフキアエズ	196	211	256	60
神武天皇	217	232	277	60
オオナムチ	147		207	60
アジスキタカヒコネ	201	216	261	60
下照姫	203	218	263	60
事代主	205	220	265	60

可児・人物年表

ルールに基づく人物年表



人物年表　これは結論ではなく、仮定・前提を置くことで算出可能となった一例

人物生存期間の試算表

- 項目に、生まれた時の親の年齢を入れ、順番を入れ替え（ソート）を行う。

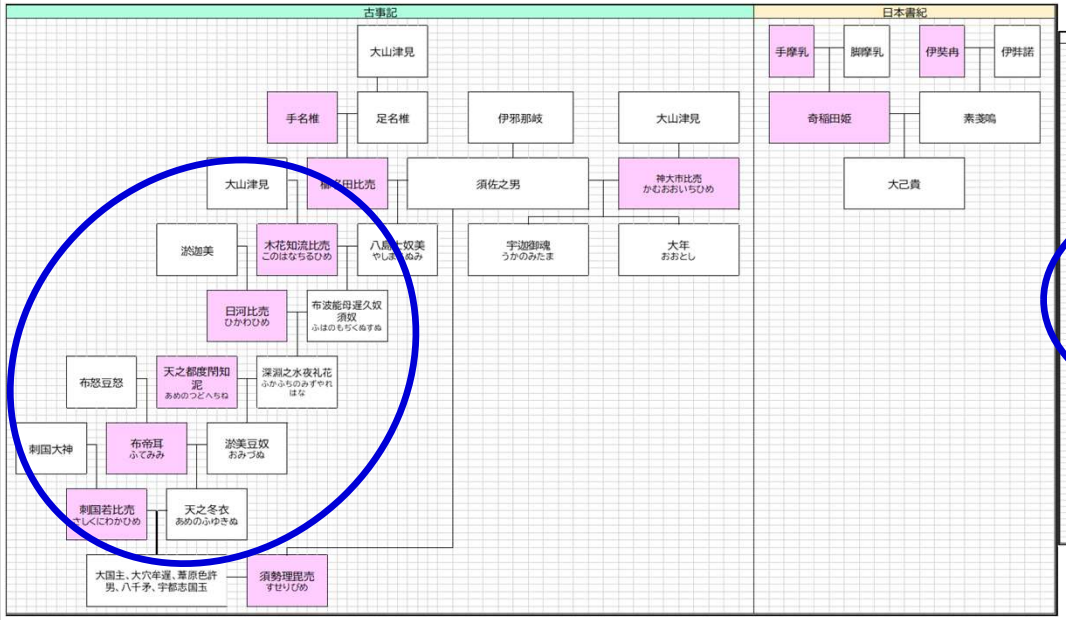
			生まれた時の親の年齢			
		生年		結婚年	死亡年	死亡年齢
親	スサノオ	142		157	202	60
親	オオナムチ	147	5		207	60
	アジスキタカヒコネ	201	54	216	261	60
	下照姫	203	56	218	263	60
	事代主	205	58	220	265	60
	天照大神	161		176	247	86
親	オシホミミ	178	17	193	193	15
親	ニニギ	192	14	207	252	60
親	ヒコホホデミ	194	2	209	254	60
親	ウガヤフキアエズ	196	2	211	256	60
親	神武天皇	217	21	232	277	60
	猿田彦	180		195	事故死	
	タギリ姫	184		199	244	60
	イチキシマ姫	188		203	248	60
	饒速日	163		178	205	42

- その結果、オオナムチは、親子関係とすると、父親が5才の時に生まれたことになり、不具合が発生。
  - スサノオとオオナムチとの関係は、娘婿との関係
- ヒコホホデミ・ウガヤフキアエズは、父親が2才の時の子となり不具合。

可児さんの人物生存期間の試算表で判断すると

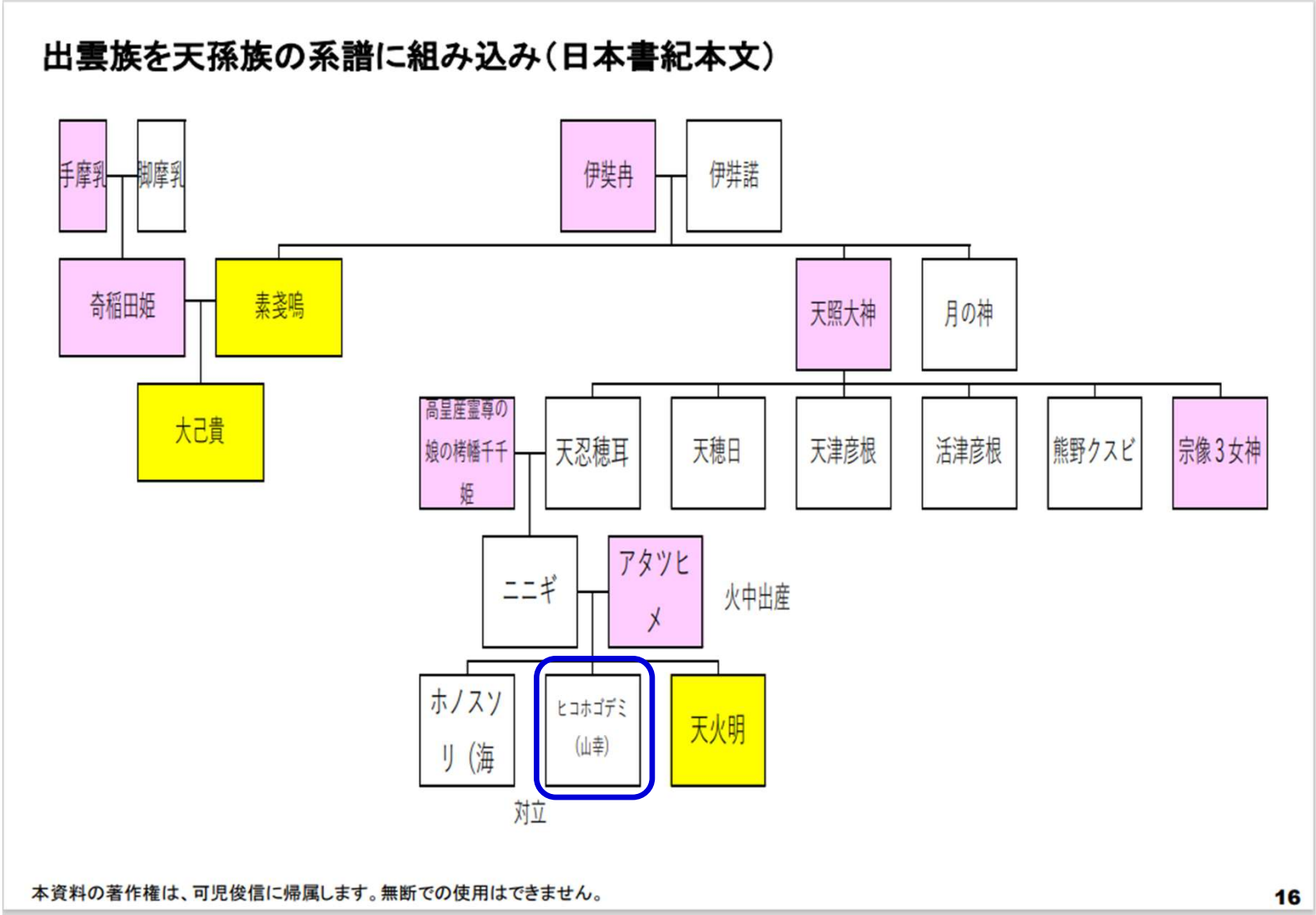
1. オオナムチはスサノウの娘婿
   - 事代主は58歳の子で、上越の斐太神社の伝承及び長野県矢彦神社の伝承のようにオオナムチ/事代主/建御名方神の3人で遠征するのは、有り得ない。60才死亡では、数字が合わない。
   - いずれにしても、古事記の5代の登場人物(下記)は否定され、抹消される。
   - 日本書紀の一書の2/3/4のスサノウの5代の孫/6代の孫とする記述も抹消される。

2. 親が2才の時に子が生まれることは無いため、ヒコホデミ・ウガヤフキアエズは抹消される。



可児さんの人物生存期間の試算表で判断すると　②

- ヒコホデミ・ウガヤフキアエズは抹消。
  - 神武天皇は誰の子か？
    - 天火明はどうなるのか？



人物生存期間の試算表　修正版-饒速日

- 饒速日命は、天孫族の天火明命であり、
  - 日本書紀ではニニギ(邇邇芸命)の子
  - 古事記ではオシオミミ(天忍穂耳命)の子
- 饒速日命は、親が生まれる前に存在していたことになる。
  - 不合理

			生年	生まれた時の親の年齢	結婚年	死亡年	死亡年齢
	親	スサノオ	142		157	202	60
	親	オオナムチ	147	5		207	60
		アジスキタカヒコネ	201	54	216	261	60
		下照姫	203	56	218	263	60
		事代主	205	58	220	265	60
	親	天照大神	161		176	247	86
	親	オシホミミ	178	17	193	193	15
	親	ニニギ	192	14	207	252	60
	親	**ヒコホホデミ**	194	2	209	254	60
	親	**ウガヤフキアエズ**	196	2	211	256	60
		神武天皇	217	21	232	277	60
		猿田彦	180		195	事故死	
		タギリ姫	184		199	244	60
		イチキシマ姫	188		203	248	60
古事記	親	オシホミミ　親	178	-	193	193	15
		饒速日　子	163	-15	178	205	42
日本書紀	親	ニニギ　親	192	-	207	252	60
		饒速日　子	163	-29	178	205	42

可児ルール　について

3　生存期間算定上のルール

恣意性を避けるため,機械的なルールを設ける

ルールA　男女とも60歳で死亡する（長命の卑弥呼、早世のオシホミミ，饒速日を除く）

ルールB　男女とも15歳で結婚する

ルールC　結婚した女性は、結婚後2年間隔で出産する（17，19，21，23歳・・・）

ルールD　結婚した男性は、結婚後1年間隔で子を得る（17，18，19，20歳・・・）

- このルール自体には不具合は無さそう！
  - 現実の歴史に当てはめるのは、難しい。
    - しかし、適用し、検討に使うならば、最低限のルールとして、適用して欲しい。
    - ルールDの場合、子供の生まれる時期は、違う相手が母となる場合は、
      - 親が、17才～70才代と幅が広い
        - 50才以上の差が生じる。
          - この差は、平均の親子より大きい。
  - 古代の王族では末子相続が多いとの説が有る。
    - この場合、親子の年齢差は、40才程度か
  - 不具合を修正し、上記の2条件を入れると、「ルールに基づく人物年表」は、大幅に年代が広がる筈。
    - このルールは、仮に設定した人物と関連する人物群の関係が適切なものかを判定するには有効だが、
      - このルールから、人物と関連する人物群を導き出すのは、難しいと思う。

出雲が天孫族を支配した？？？？？

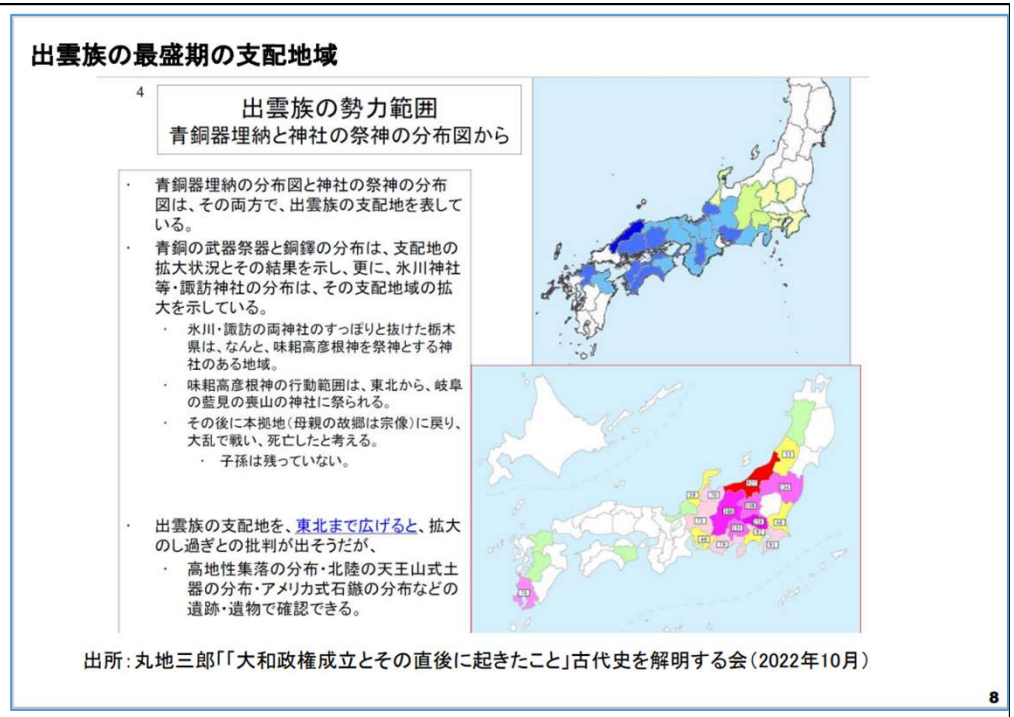
- 出雲族の最盛期の地図が引用されたが、
  丸地の説明では、天孫族は、出雲族に支配されない。

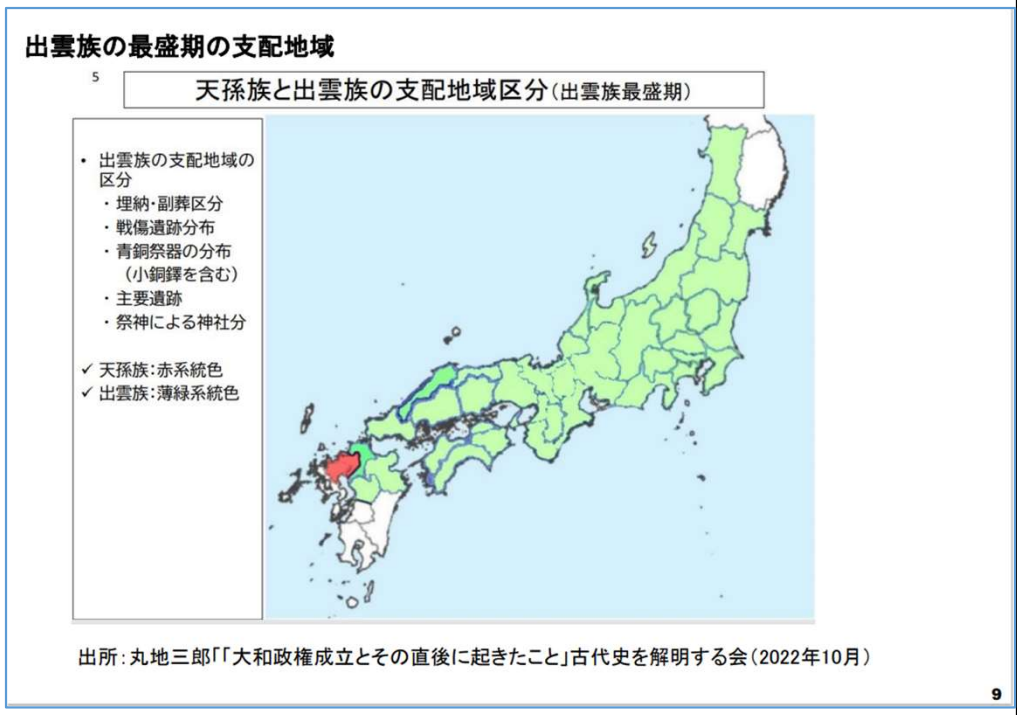
- 2021年11月13日 解明委員会の基礎レポート「出雲勢力？？」
  では、次頁のように示した。

- 早良で王墓を築いた一族が福岡に移転し、須玖岡本の北九州一帯の王と見なす王の王となった。
  - 中期の戦乱が発生したが、その王の王が勝者となり、制圧した。
  - 引き続く中期の戦乱に敗退し、平野はかっての繁栄や栄光を失い、集落・人口が減少。
- 須玖岡本の王一族は、突如糸島・平原に移り、**栄華を継承した。**

- 武器となる鉄の出土量でも、
  - 出雲族と天孫族の鉄の出土量は同等と説明

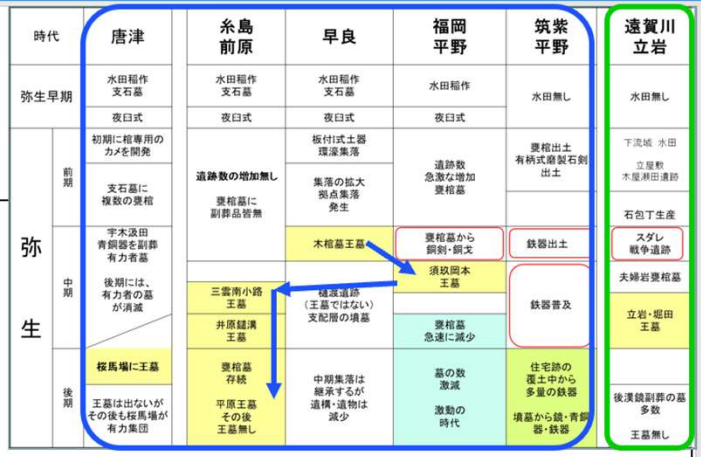
- 天孫族と出雲族：鉄製品の所有量は互角か、出雲がやや多い。





36

弥生：初期・中期の戦争遺跡と遺物から



- 遺跡・遺物だけから推測できること

- 縄文晩期/弥生早期に水田稲作を開拓した最初の渡来民と縄文人の連合の集落は、2次渡来民の逆襲に会い、全ての集落が負け、2次渡来民の集落に置き換わった。

- 2次渡来民の集落は北九州全体に広がったが、各地域ごとに違いが出た。
  - 糸島・前原は、発展が少なく、弥生渡来民には広い平坦地が広い遠賀川は急激に発展。
  - 早良が最も早く発展し、次いで発展した福岡平野では、青銅器工業が発展。
  - 早良で王墓を築いた一族が福岡に移転し、須玖岡本の北九州一帯の王と見なす王の王となった。
    - 中期の戦乱が発生したが、その王の王が勝者となり、制圧した。
    - 引き続く中期の戦乱に敗退し、平野はかっての繁栄や栄光を失い、集落・人口が減少。
  - 須玖岡本の王一族は、突如糸島・平原に移り、栄華を継承した。
  - 一方、遠賀川流域では、王の王とも思われる繁栄があり、
    - 中期の後半の戦争で勝利したのが遠賀川系であったことが判る。
  - 筑紫平野は、終始繁栄し、勝者の側にいた。
    - 前期・中期・後期を通じて武力を持ち、先端の鉄製武器を多く所有していたが、王の王となるような王墓は残していない。
  - 唐津（宇木汲田）は中期の戦争に参加し、早良・福岡側に属していたようだが、
    - 須玖岡本の陥落後は、遠賀川系に与する勢力（桜馬場）の勢力下に置き換わった？？

倭国大乱の時期

- 可児さんは倭国大乱の時期を、2世紀後半(桓霊の間)/AD180年代とした。

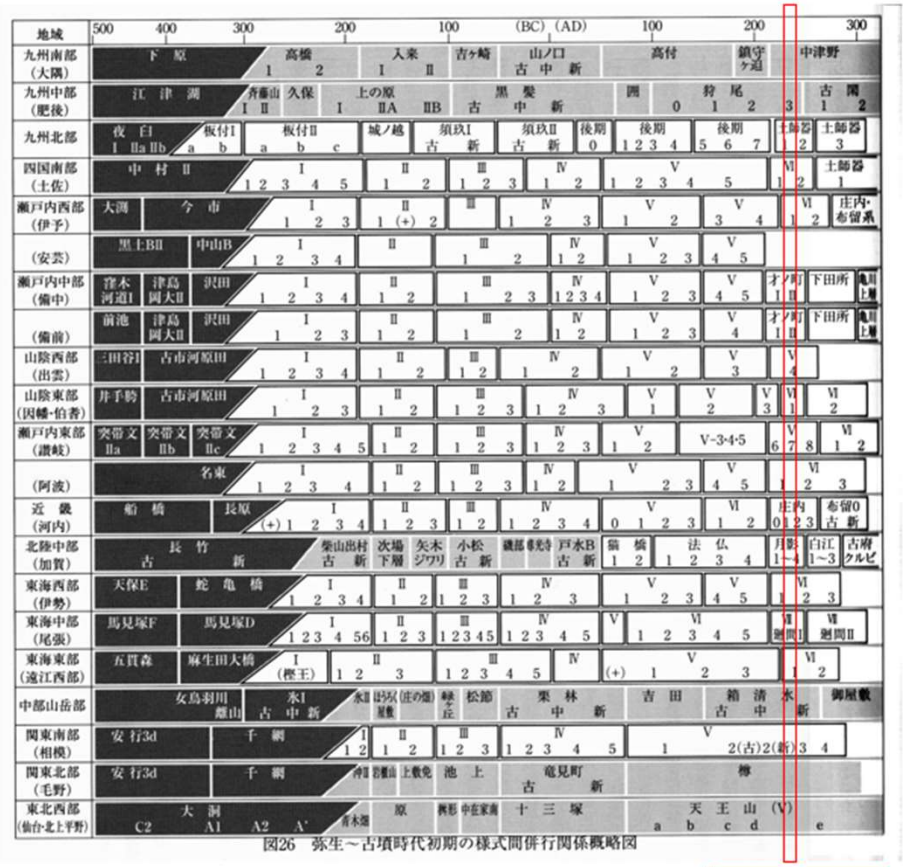
- 2020年3月27日　の解明委員会 「邪馬台国論」で、「史料批判」についてを説明した。
  - 三国志(魏志倭人伝)以降の中国史書の邪馬台国に関する記述には、信頼性が無く、魏志倭人伝と異なる情報が記された場合には、その情報は信頼できない。
  - 「魏志倭人伝と異なる情報」を根拠にする場合には、別途、情報の信頼性を評価が必要。 『史料批判』
    - 後漢書の場合、新たな有力な日本情報は無かったと推察する。
      - 倭国乱の時期を桓・霊の間(146年 - 189年)と具体的に記述しているが、情報の入手先は疑問で、陳寿の不採用とした史料を見たのか、著者の単なる推察なのかも不明。信頼性は無い。
    - 梁書は、魏志・後漢書の引き写しと思われるが不正確。誤字多し。
      - 猟奇的な内容を含み信頼性無し。

  - 梁書の信頼性がない/デタラメな内容は、原文と訳を示して、梁書を無批判に採用しないことを求めた。

- 信頼できる年代として使えるのは魏志倭人伝の情報。 後漢書・梁書などは採用すべきでない。

年代を特定する方法

- 科学的年代測定法の「ものさし」に信頼が置けるようになり、適切に運用された場合には、これが一番信頼できる。
- 現状使われている年代測定法
  - 土器編年　---　寺沢薫氏などが全国の土器編年を統合しようとして表を出している。 これは参考にできる。
  - 青銅器による編年　---　年/10年単位では特定できないが、有効。
  - 戦争/戦傷遺跡・高地性集落などの集計表。
- 地道に、考古資料と文献史料の対比を行い年代推定することが先決では？



- 天孫族・出雲族も日本国内で活動したので、日本各地にその活動の痕跡が跡っているはず。
  - その痕跡が考古資料なので、それを検討し、十分に利用して欲しい。

- 古代史を解明する会（解明委員会）でも、基礎的な報告があるので参考にして頂けると幸い。
  - 2021年2月27日　基本レポート　弥生時代から古墳時代
  - 2021年3月27日「邪馬台国論」 邪馬台国の探し方
  - 2021年11月13日『出雲勢力??』